

平成29年度 第3回宇都宮市社会福祉審議会障がい者福祉専門分科会 会議録

■日時 平成30年2月21日（水）午前9時00分～10時30分

■場所 宇都宮市役所 16階 16中会議室

■出席者

1 委員

高橋委員，影山委員，興野委員，渡辺委員，中澤委員，麦倉分科会会長，小林委員，池本委員，清水委員，上田委員，小口委員（順不同）

※欠席 鈴木委員，齋藤委員

2 事務局

障がい福祉課：課長，課長補佐，各係長，担当者

子ども発達センター：所長，副所長，担当者

3 傍聴者

0名

■会議経過

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) パブリックコメントにおける意見の概要及びその対応（案）について

委員

リーディングプロジェクトとは何か？

事務局

プランの6年間で重点的に取り組む事業。「健やかな成長に資する支援」と「親なき後など生活環境の変化への対応」に優先的に取り組むため、「子育て・子育て支援プロジェクト」と「地域生活移行・継続プロジェクト」の2つを設定した。

委員

言葉の意味が分かりにくい。

委員

これまでの計画では，計画本書の最後に語句の説明が掲載されているので，「リーディングプロジェクト」に限らず，今回もそのように対応してほしい。

委員

リーディングプロジェクトは宇都宮市が独自に力を入れていく事業だと思うので，次期プランの目玉であることを強調して行った方がいい。

事務局

そのようにPRしていく。

## (2) 宇都宮市社会福祉審議会からの提言書（案）について

委員

地域移行を大きく取り上げているが、そのためには包括支援センターの役割が大きいと思われるので、高齢福祉課も関わるべき。

事務局

今後、必要に応じて協力を依頼していく。

委員

提言書（案）の1ページに『「障害者権利条約」が発行』となっているが、「批准」ではないか？

事務局

計画本書も含めて修正する。

委員

1ページ下段に「誰もが偏見を持たず、支え合い助け合う社会の実現が重要」とあるが、偏見は個人の知識や考えに起因するので、「障がい者への理解を進め・・・」などの表現にしてはどうか。

また、3ページ下段の「社会的障壁を感じることなく」についても、障壁そのものを無くすることが重要ではないか。

事務局

社会福祉審議会からの提言なので、今回の分科会でご議論いただきたい。

委員

3ページに「農業と福祉の連携を図るなど、～多様な就労機会を確保する」とあるが、多様な就労機会の確保のために、農福連携以外にも取り組んできたことがあるのではないか。

事務局

提言書（案）の作成に当たっては、これまでの分科会における意見をできるだけ盛り込むように作成した。包括的に作成する場合もあるので、どちらがよいかということについてもご議論いただきたい。

委員

1ページに「誰もが偏見を持たず」とあるが、その後に相模原市の事件や、市内施設における虐待事案が記載されている。このような具体的な記述は障がい者への偏見を助長する恐れがあるのではないか。

委員

このような事件を踏まえ、どのように障がい福祉施策を進めていくかという点で掲載する意味があると思う。

委員

親なき後の住まいの場という問題を考えていくうえで、対象者の推計値を出したことは評価しているが、最終的な素案では推計値が除かれている。また、親なき後の対象者と比較して地域移行者数は非常に少ないが、リーディングプロジェクトの名称が「住まいの場」から「地域生活移行・継続」と変更になったことは、後退してしまったようで残念だ。

#### 事務局

県の計画における精神の病床数の目標は減となるので、地域移行も引き続き重要と考えた。委員の意見は自立支援協議会において新たな部会などの設置につなげていきたい。

#### 委員

外出・移動支援が「充実」となっているが、具体的なハード面やソフト面の取組を記載してはどうか。

#### 表倉分科会会長

時間に限りがあるため、後は分科会会長へご一任いただきたいがよろしいか。

#### 全委員

了承

#### 事務局

3月14日に社会福祉審議会全体会へ報告し、3月22日に分科会会長から市長へ提言書を渡すことになるので、さらにご意見がある場合は、3月2日までに事務局へご連絡いただきたい。

### (3) 障がい者福祉専門分科会審査部会の活動状況等について

意見無し

## 4 その他

#### 委員

障がい者の歯科医療を二次・三次医療と繋げていけるよう取り組んでいきたい。  
障がい者と触れ合うことで理解も進むと思うので、そのような機会が学校などがあるとよい。

#### 委員

委員を受けたおかげで、周りの障がい者から様々な要望を聞く機会が増えた。自分でも気づけなかったことを気づくことができた。

#### 委員

障がい児の親として、自分たちのNPOで理解促進に頑張っていきたい。  
市で作成したヘルプカードを使っているが、大変助かっている。もっと知ってもらえるとよい。また、ヘルプマークは1つしかもらえないが、2つ頂けると使い分けができて助かる。

#### 事務局

ヘルプカード・ヘルプマークについては、今年度も動画を作成しており、引き続き周知啓発に努めていきたい。ヘルプマークは県が作成しているので、複数配布の希望について伝えていく。

#### 委員

今後も様々な議論の場に参加しながら、障がいへの理解促進に貢献していきたい。

## 5 閉会